

宝達山

宝達志水町立宝達小学校

目指す児童像

- ☆よく考える子
- ☆思いやりのある子
- ☆たくましくやりぬく子



令和6年6月3日(月)
文責 校長 村田 浩彦

宝達っ子の自己肯定感を高めたい!

NHKが行った「子ども・若者は何を思うか 1万人アンケート」によると、「今の自分に満足しているか」という質問に「とても満足」との回答が9.8%、「まあ満足」との回答が37.1%、合わせて46.9%と半数に満たない結果となったそうです。また、「自分の将来に期待をもてるか」という質問に「とても思う」との回答が13.2%、「まあそう思う」との回答が32.1%、こちらも合わせて45.3%だそうです。

先進国の中で日本にあってこの数値をどのように受け止めればよいでしょうか。あまり不自由を感じない生活にあっても、気持ちは何か満たされないものがあるのかもしれないかもしれませんし、また、自分に自信がないのかも知れません。子どもたちに自信をもたせるには、子どもたちの自己肯定感を高める働きかけが大切です。

学校では、様々な活動を通して、**自分で考え、思いやりを持ち、最後までやり抜く子どもの育成**を目指しています。それによって自己肯定感も高まっていくと考えています。家庭でも、子どもたちの頑張りを認め、自己肯定感を高める声掛けをお願いいたします。

夢をかなえるためにがんばろう!

全校集会では、校長先生のお話を最初に行います。6月3日(月)の全校集会でお話したことについて紹介します。

右の写真は、おとなりの福井県に住む、大森陽生(おおもりはるき)君です。以前、新聞やインターネットで話題になった、小学2年生(当時)です。



陽生君は、1年生の時に JAXA (ジャクサ、宇宙航空研究開発機構) が募集した宇宙飛行士に

応募しました。応募資格はありませんでしたが、塾の先生に勧められて応募したそうです。陽生君が提出したエントリーシートには、自分の得意なことやがんばっていることなどが書かれていたそうです。小学1年生なので合格というわけにはいきませんでした。驚いたことに JAXA からお返事が来たそうです。集会ではそのお手紙を読んで聞かせましたが、勉強やスポーツを頑張ったり、学校の先生や親との約束を守ったりすることは宇宙飛行士になるためには大切なことだと書かれていました。

集会では、陽生君のエピソードをもとに、子どもたちには**自分の夢をかなえるために勉強や学校生活を頑張ることを**お話ししました。